

**T I C A D VI公式サイドイベント
「アフリカのための日仏パートナーシップ」
武井俊輔外務大臣政務官御挨拶**

平成28年8月26日

(司会者からの指名を受けて)
ありがとうございます。

マブリ・トワケス・コートジボワール共和国外務大臣,
アンドレ・ヴァリニ・フランス共和国外務・国際開発大臣付
開発・仏語圏担当長官,
各国閣僚及び大使の皆様,
御列席の皆様

日本政府を代表し、日仏共催のT I C A D VI公式サイドイベント、「アフリカのための日仏パートナーシップ」への御参加を心から歓迎いたします。

今回のT I C A Dは、23年のT I C A D史上初のアフリカ開催です。そして、本イベントも、T I C A D史上初の日仏共催の公式サイドイベントです。本イベントの実現にあたり、多大なるご協力を頂いたフランスの皆様には、厚く御礼申し上げます。

御列席の皆様、

日本とフランスは、自由、民主主義、人権及び法の支配の尊重といった価値を共有する、極めて重要なパートナー国です。2013年、安倍総理大臣とオランド大統領は、安全保障・成長・イノベーション・文化を振興するための「特別なパートナーシップ」を表明しました。

日本とフランスは、エネルギー、自動車、医療、持続可能な開発といった分野において、イノベーションにより共に世

界をリードし、緊密かつ野心的なパートナーシップを築き上げてきています。

そして、我々が本日祝福すべき日本とフランスの最も重要なパートナーシップは、アフリカのためのパートナーシップです。昨年、日仏両国首脳は、「アフリカにおける持続可能な開発、保健及び安全のための日仏計画」を発表し、アフリカの更なる発展のために、日仏両国が、共に手を携えていくことを誓いました。

御列席の皆様、

日仏アフリカ協力の三本柱の一つである、持続可能な開発に関し、日仏両国は、コートジボワールのアビジャンをパイロット都市として特定し、持続可能な都市開発に共に取り組んでいます。

アビジャンでは、^{セーファーオー}豊田通商とC F A O社が、次世代ショッピング・センターの開設やインターネット・ショッピングといった分野においても協力を進めています。更に、この協力はアビジャンから他のアフリカの都市へも広がりを見せています。そして、本日も、三菱商事によるMOU署名等、アビジャンにおける新たな日仏民間セクターの協力が発表されると伺っております。

二つ目の柱の保健分野においては、本年5月、日仏両首脳も出席し、日本で開催されたG7伊勢志摩サミットで、アフリカが抱える保健課題も踏まえ、保健分野が大きく取り上げられ、日仏で推進してきたユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）がG7で初めてハイライトされました。サミットに先立ち日本政府は保健分野への貢献策として約11億ドルの貢献策を発表し、アフリカも含めた国際保健に関するG7の議論をリードすることができました。

エボラ出血熱治療薬に関し、富士フイルムグループとフランス国立保健研究所（INSERM）の共同研究が行われています。このような、素晴らしい日仏協力が保健分野においても更に進展することを期待しています。

そして安全の分野では、先月、安保理において岸田外務大臣が議長を務め、公開討論「アフリカにおける平和構築」を開催しました。この公開討論に、フランスからは、ヴァリニ長官が御出席されました。

また、今回のTICAD VIにおいて日本は、アフリカにおける平和と安定の実現のための取組を、明日、安倍総理から発表します。

御列席の皆様、

今回のTICAD VIに際し、日アフリカ関係において史上最大となる約200社に及ぶ日本企業と、約20社のフランス企業のリーダーが、ここナイロビに集いました。日仏両国政府は、JICA、AFDといった開発機関と共に、日仏民間セクターが、アフリカの持続可能な開発、アフリカの保健、アフリカの安全強化のために連携していくことを後押ししていきます。

最後に、日仏両国が、アフリカの更なる発展のために、より多くの貢献ができることを祈念しつつ、私の御挨拶に代えさせていただきます。

ありがとうございました。

（了）